

# 令和2年度 第5回横浜市創造界限形成推進委員会

## 次 第

日時：令和3年3月24日（水）

10時00分～12時00分

実施方法：WEB会議形式

（事務局）横浜市役所 18階共用会議室さくら 16

### 【議題】

- 1 審議事項
  - (1) 令和3年度事業計画及び事業評価軸について
  - (2) 文化芸術創造発信拠点形成事業の期間延長について
- 2 報告事項  
旧第一銀行横浜支店及び旧老松会館の公募に向けた進捗について
- 3 その他

### 【資料】

- ① 次第
- ② [資料1] 委員名簿
- ③ [資料2] 前回議事録（令和3年1月22日開催分）
- ④ [資料3] 令和3年度事業計画及び事業評価軸
- ⑤ [資料4] 文化芸術創造発信拠点形成事業の期間延長について
- ⑥ [資料5] 旧第一銀行横浜支店及び旧老松会館の公募に向けた進捗について

## 横浜市創造界限形成推進委員会委員名簿(9名)

氏名	所属団体(役職名)		分野	出欠
◎野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画	○
○六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元	○
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画	○
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術	○
菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流	○
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業	○
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント	○
藁谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり	○
山口 真樹子	ゲーテ・インスティテウト東京	コミュニケーション・広報	国際交流/舞台芸術	○

◎…委員長

○…副委員長

横浜市創造界限形成推進委員会 分科会委員名簿

旧第一銀行横浜支店事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
★恵良 隆二	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	専務理事	まちづくりと経営

旧関東財務局横浜財務事務所事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

旧老松会館事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 山口 真樹子	ゲーテ・インスティテュート東京	コミュニケーション・広報	国際交流/舞台芸術
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
★恵志 美奈子	世田谷パブリックシアター 劇場部		公立文化施設

象の鼻テラス事業評価分科会

◎ 菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント

初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点事業評価分科会

◎ 日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

文化芸術創造発信拠点事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
★恵良 隆二	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	専務理事	まちづくりと経営
★近澤 弘明	(株)近澤レース店	代表取締役	経営と地元

◎…議長

★事業評価及び運営団体選考分科会に参加する委員以外の有識者

令和 2 年度第 4 回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和 3 年 1 月 22 日（金）15 時 00 分～16 時 40 分
開催場所	WEB 会議形式（事務局設置：横浜市役所 18 階共用会議室みなと 4）
出席者	野原委員長、六川副委員長、岡本委員、菅野委員、重松委員、日沼委員、簗谷委員、山口委員、恵良氏
欠席者	遠藤委員
開催形態	一部非公開
議 題	1 報告事項 （1）今後の創造都市施策の方向性の検討「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について （2）特別分科会の実施報告について
決定事項	
事務局	<p>【開会】</p> <p>○令和 2 年度第 4 回横浜市創造界限形成推進委員会を開始する。</p>
事務局	<p>【資料確認】</p> <p>○配付資料の確認が行われた。</p>
事務局	<p>【定足数の確認】</p> <p>○委員 9 名中 8 名が出席しており、委員会の成立となる。</p>
事務局	<p>【会議の公開・非公開】</p> <p>○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条により原則公開となるが、報告事項（2）「特別分科会の実施報告について」は、同条例第 7 条第 2 項第 5 号に当たるため非公開とするが、よろしいか。 （了承）</p>
野原委員長	<p>【分科会委員の指名について】</p> <p>○旧老松会館事業評価及び運営団体選考分科会委員について、旧老松会館事業評価及び運営団体選考分科会の設置及び運営に関する要領第 3 条に基づき新たに委員 1 名を指名した。</p> <p><b>報告事項（1）：今後の創造都市施策の方向性の検討「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について</b>          &lt;事務局より説明が行われ、議題について意見交換が行われた。&gt;</p>
野原委員長	○ここまでの説明について、質問や意見はあるか。
菅野委員	○今取りまとめている全体の方向性に関してもそうですが、横浜市全体のあるべき姿に関しては、もう少し上のレベルを設定していくということと、市民の参加の裾野を広げていくという、両方の作業が必要になってくるかと思った。この突破口をどう切り開いていく

	<p>恵良氏</p>	<p>かは、一つは国際性。常に刺激を受けるという点で、交流をもっとやっていたらいい。今はコロナ禍でこういった発想がしにくいですが、それでもオンラインツールを使って、海外の方たちとディスカッションできるような場や、お互いに刺激をもたらすような場、あるいはプラットフォームを横浜市の中で作っていく方向性が、必要ではないかと強く感じている。停滞感を感じる原因やこれまで積み上げてきたものを次のステップに向けてどうしていくかを考えると、グローバルな部分とローカルな部分をどう繋げていくかが重要だと思う。</p> <p>○創造限界が中心の議論ですが、その前に創造都市政策の大きなコンセプトや全体のスキームが共有されていると、アクションプランを定めるときにうまくいくかと思う。民間施設、企業、市民、公営文化芸術施設やACYなども含めた全体がどうなっているのかを念頭に置きながら、創造限界の施策を考えていくのが良い。それぞれの拠点がいくつかの方向性を示しているのので、これを整理していくと何か具体的なプロジェクトに引っかけて動いていくものがあると思う。対象範囲も少し広げていくと、大使館的な海外機関も視野に入ったり、クリエイターの幅も広がったり、地域の捉え方も変化したりする。それぞれ話し相手によって、色々な答えが得られるだろう。</p> <p>また、創造産業の出口について、調査結果を踏まえてクリエイターの活動分野の広がりへ誘導すべきか、出口はどこかを描いていくことになると思うが、横浜の産業施策と通底する方向性を持った方が、妥当性があると思う。例えば、今後の成長分野であれば、SDGsを踏まえた次の時代の産業への参画、環境分野、まちづくり分野や社会基盤でもある医療、教育、福祉分野もあると思う。</p> <p>また、今後の創造限界拠点の成果の評価指標や効果測定があるとより認知されやすくなり、政策判断しやすくなるので、非常に難しい問題ではあるが、どこかで取り組む必要があると感じている。</p>
	<p>山口委員</p>	<p>○方向性案を見ると、国際性や海外との繋がりをはっきり出されているのは非常に素晴らしいと感じた。現在は移動に制限がかかっているのは非常にすばらしいと感じた。現在は移動に制限がかかっている、今後どのようにモビリティを確保し、新しい形でコミュニケーションをとっていくかというのは、アーティストやアーティストを支援する側、文化芸術に関わる人たちにとっては非常に大きな問題であり、これについて横浜市として、パイロット的なプロジェクトやアイデア、イニシアチブを取ると、とても良いと思う。例えば、海外の先進的な創造都市と姉妹都市関係を結ぶとか、コンスタントにコミュニケーションを取るプログラムをつくるなど、いろいろやり方はあると思う。</p> <p>「世界のトップレベル」との繋がりとはどのようなイメージか。</p>
	<p>事務局</p>	<p>○有識者へのヒアリングでは、例えばデザイン業界で活動している方は多くいるが、世界的に影響力がある人や世界のトップクラスの人と交流できる場という部分が、アジアやヨーロッパの他都市に比べて、横</p>

		浜は弱いという意見を複数頂いており、こういった部分を補完できると良い。
山口委員	○ならば、間をつなぐ役割を果たすのは、分野によって制作者やプロデューサー、コーディネーターなどがある。こういう人たちも含めて、育成の対象とし、彼らが経験を積めるような機会をつくることを考えても良いかもしれない。	
六川委員	○横浜市のこういう仕掛けがあったからこそ、クリエイターが集積して、起業して、横浜で仕事がある、あるいはここで事業ができる、そんな横浜になってきていると思う。国際性的の話があったが、横浜はポテンシャルが非常に豊かなので、発展的に考えて良い。全体的には、少し表現が硬いような気がするので、もっと市民や事業者が参加しやすい、事業展開をしていくと、可能性がもっと広がるのではないかと思う。	
恵良氏	○国際性的の話では、一般論で海外ネットワークをやっても難しいと思う。ある程度テーマを絞ると関わる人も変わってくる。そうした人の情報を得ながら進めていければと思う。また、創造界隈拠点の役割だが、全体をプロデュースする仕掛ける側の視点では、例えば人なのか、組織なのか、仕組みなのかを考えることもあると思うので、次のステージでの議論を期待している。そして、創造都市の広報やブランディングの戦略的な方法を考えていくことになるだろう。	
重松委員	○言葉がとても重要。議論を重ねて、様々なあるべき姿や方向性が見えてきていると思うが、横浜の目指す姿を一言で表す言葉が必要なのではないか。例えば、株式会社 JINS は、行政と大学と地元企業を絡めて群馬イノベーションアワードをつくり、街の活性化のために動いている。このアワードのタイトルが「群を抜け。」。要するに開業者を増加させる目標を、この一言で表している。また、ドイツのメルケル首相も「ドイツの文化を応援します」、「アートを応援します」と一言で言っている。細かい文章で説明されるよりも、その一言を魅力に感じ、人々が惹かれることは多いのではないかと思う。最終的には、方向性を表す言葉をつくっていただけたら良いと思っている。	
岡本委員	○国際交流については、資料を読む限り、デザイン分野でのトップレベルとの交流に課題があると理解した。というのも、例えばアートであれば、既に横浜トリエンナーレや TPAM などには、まさにトップレベルの方々が十分に参加されている。きちんと交流できる機会が既にあるので、そこをもっと活用してはどうか。漠然としているとしっかりした交流機会を個々がつくるのは難しいかもしれないが、例えば、拠点に関わるアーティスト限定の交流の機会をつくってもらうなど、これに対する支援は不可能ではないと思う。	
日沼委員	○コロナ禍での新しい生活様式が、アーティスト・クリエイターたちにとって、必ずしもマイナスだったかという、そうでない。昨今、例えば芸術祭などを中心に活動していたアーティスト・クリエイターに	

	<p>       とっては、本当に忙しく、次々と働かないと自分たちが生活できない、という循環に追い詰められてきた 10 年間だったのではないかと感じている。コロナ禍では、一旦立ち止まり、何が必要かをじっくり考えるための時間と契機を得ることができたのではないか。これを踏まえると、目指すべき姿にある「活発な活動が次々に起こっていく」というのは、むしろ「持続可能性」な状況をどうつくっていくか、とした方が、実は好循環によりつながっていくのではないかと考えている。数ではなく、長期的に、あるいは定住につながるような、ゆったりとした営みがここに着地する、その長期的な活動を支えるといった好循環と捉えた方が、より今日的なメッセージになるのではないか。もちろん、芸術祭を否定するわけではないが、創造活動をする人たちにとって、ゆったりと考える時間、長期的なスパンで成果を出して良いという環境があるのは最も大事なこと。都市という、忙しく何か動いているということに魅力を感じて集まるクリエイター・アーティストもいると思うが、アートにとってはもっと長期的な展望をメッセージとして与えられるような姿を横浜に取り入れていただければ非常に良いのではないかと思った。     </p> <p>       事務局 ○日沼委員が仰った内容は、アーティストの方々と接する中で実感しているところ。目指すべき姿の「活発な創造活動」では、横浜で活動していく中で、しっかり収入を得て、かつそれぞれのアーティスト・クリエイターの方々の価値観、考えに基づいた作品を生み出し、それがまた広くマーケットに出ていくという循環性も意識している。もう少し分かりやすく書くこと、あるいは具体的な検討の中で考えていければと思う。     </p> <p>       菅野委員 ○国際性において、イベントなどのやり方では、オーストリア／リンツのアルス・エレクトロニカフェスティバルが参考になる。当初はブルックナーという作曲家のためのフェスティバルだったのが、今はメディアアートのフェスティバルとなっている。リンツはかつて工業都市であり、それが衰退してきた時に、文化イベントに切り替えた歴史がある。プログラムの考え方が、もちろんフェスティバルではあるが、その中に持続性などの視点を盛り込んでおり、非常にうまく考えられている。フェスティバルの前日には、リンツ市内の子供たちが無料で見に来ることができ、これは教育との関係性を生んでいる。他にもメディアアートの展示のためのセンターやラボも作っている。世界からメディアアートの人たちを呼んで、滞在してもらい、いろいろな実験をするラボで「フューチャー・ラボ」という。会期中は、世界中から関心を持っている人が集まり、メディアアートの最前線や現状を知るためのワークショップがたくさん開かれ、知的な刺激の場にもなっている。教育や情報交換、実験性、継続性、フェスティバルの魅力をどのように持続させていくか。それが今、アルス・エレクトロニカ・ジ     </p>
--	---

	<p>事務局</p> <p>野原委員長</p> <p>事務局</p>	<p>ヤパンとして実施され、国外にもフェスティバルのやり方がある種売り込んでいる。一つのプログラムがどのようにサステナビリティと魅力とレベルを高め、市民の人に広げていくかを考えてつくられている。もちろんこれは1年でできているわけではなく、20年、30年かけて今の形になっているので、こういった考え方は、これからの横浜のクリエイティビティを広げていく上で重要ではないかと思った。</p> <p>○あるものを磨いて、ないものをつくるということが重要だと思う。イベント系で言えば、横浜トリエンナーレや TPAM などを磨きにかけていく。創造界限拠点で言えば、BankART1929 は AIR を通じて東アジアと、黄金町は ASEAN、東南アジアとつながっている。象の鼻テラスでは、横浜の姉妹港との交流事業をやっているの、既にいろいろな取組がある。加えて、海外都市を参考にしながら、新しい事業も仕掛けていくこと。そのあたりをもう一度見直しても良いと感じた。</p> <p>○5つの目指す姿を出していただいているが、同時に「How」、どのようにそれをやるのかを併せて考えることが大事。それぞれの項目について、一步踏み込んだ形で検討される上で、具体的にどのようにやっていくかを考えつつ、もう一回目指すべき方向を見直してみるとより分かりやすくなるかと思う。また、最近アーバンデザインセンターという、公民学連携の拠点において、まちづくりを進めていく話が盛んに行われている。世界の同様のセンターでは、そこに行くと一目でその都市の最前線の都市戦略や都市情報が分かる。横浜市でも、創造都市施策をこれだけやっているの、どこかへ行ったら一目で理解できるというような「分かりやすさ」や「伝え方の工夫」があっても良いかと思った。</p> <p><b>報告事項（2）：特別分科会の実施報告について</b></p> <p>&lt;事務局より説明が行われ、議題について意見交換が行われた。&gt;</p> <p>&lt;事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュールなどについて、事務連絡が行われた。&gt;</p> <p>○これをもって、第4回横浜市創造界限形成推進委員会を終了する。委員の皆様、長時間ありがとうございました。</p>
資料		<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 委員会議事録（令和2年10月21日、11月19日開催分）</p> <p>④ [資料3] 「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について</p> <p>⑤ [資料4] 特別分科会の実施報告について</p>
特記事項		

# 令和3年度 事業評価シート

拠点名:文化芸術創造発信拠点 (BankART1929)

運営期間:平成30年度～令和3年度 (4年目/4年間)

## 【基本方針(使命・理念)】

- (1) 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと
- (2) 他都市及び国際的なネットワークの構築
- (3) さらなるBankARTの経済的な基盤の確立
- (4) 創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり

資料3

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価	
			自己評価(成果・課題)	委員会評価
評価軸				
1 経済的な基盤の確立	1 全体事業収支			
2 経済的な基盤の確立	1 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率			
	2 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等)の内訳と比率			
3 施設の整備・維持管理状況	1 施設の整備状況			
	2 施設の管理状況			
	3 施設の修繕・改善状況			
	4 安全対策			
	5 その他			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BankART Station (隣接する道路区域を含む)</li> <li>・BankART KAIO(R2年10月～)</li> <li>・その他</li> </ul>			
4 広報・発信	1 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 企画と連動した広報活動・情報発信</li> <li><input type="checkbox"/> 次年度以降を見据えた広報・情報発信</li> <li><input type="checkbox"/> 文化芸術創造都市・横浜のPRIにつながる広報活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイレクトメール送付、メールニュース配信</li> <li>・WEBサイト運営、ブログ運営、SNSでの情報配信</li> <li>・プレスリリース配信およびプレス対応</li> </ul> </li> <li><input type="checkbox"/> 出版事業</li> <li><input type="checkbox"/> 次年度以降を見据えた周辺企業・地元との関係構築</li> <li><input type="checkbox"/> 次年度以降を見据えた国内外での事業PR、講演、レクチャー、国内外からの視察受け入れ</li> </ul>			

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)	実施結果	事業評価		
評価軸	評価の着眼点			自己評価(成果・課題)	【チェック】	委員会評価
1 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと	1	アーティスト・クリエイターの育成支援や横浜への定住・定着を促すことを主な目的とした短期滞在型アーティスト・イン・レジデンス事業	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 <input type="checkbox"/> AIRの開催(オープンスタジオの開催) <input type="checkbox"/> 台北との交流AIRの実施 <input type="checkbox"/> 出版事業			
	2	横浜で活動するアーティスト・クリエイターや企業・事業者・市民等と連携した街の活性化に寄与する事業	<input type="checkbox"/> 主催事業 ・野老朝雄氏、鷺見和紀郎氏等の企画展の開催 ・食と現代美術展 ・UNDER35の開催 <input type="checkbox"/> スクール事業 ・みなとみらい地区の企業との連携 ・アーカイブ公開 <input type="checkbox"/> カフェ・ショップ事業 <input type="checkbox"/> 出版事業			
	3	本事業の成果発信及び最先端の文化芸術に市民が触れる機会の提供等を目的とした様々なプログラム	<input type="checkbox"/> 主催事業 ・野老朝雄氏、鷺見和紀郎氏等の企画展の開催 ・UNDER35の開催 <input type="checkbox"/> コーディネート事業 ・YPAM、コルビジェ、卒展など <input type="checkbox"/> スクール事業 ・みなとみらい地区の企業との連携 ・アーカイブ公開			
2 他都市及び国際的なネットワークの構築	1	<input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 台北市との芸術家相互派遣プログラム <input type="checkbox"/> 海外との相互派遣など	・台北市との交流事業AIR ・国内外での事業PR、講演、レクチャー ・国内外からの視察受け入れ ・台地の芸術祭(BankART妻有)			
3 創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり	1	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 <input type="checkbox"/> 出版事業 <input type="checkbox"/> その他	・AIRの開催(オープンスタジオの開催) ・UNDER35の開催 ・周辺へのアーティスト誘致			

【総評】

【市の取り組むべき事項】

【総評】(令和元年度)

・分散型施設の本格的な運営初年度かつ、コロナも重なり非常に厳しい条件の中、施設の再編成に着手するなど、今後の安定した運営に向けた取組に尽力されている点が評価できる。  
 ・stationにおいて、鉄道会社、駅舎との協調や道路使用上での工夫がみられるほか、みなとみらいに立地する企業や学校との連携が着実にできており、様々な可能性を広げている点が高く評価できる。  
 ・客観的に推移・経年変化を把握できるよう、事業の内容や経費などをデータで蓄積し、今後の運営に生かすことを期待する。  
 ・リスクマネジメントの観点から、不慮の事態に備えた体制づくり、人材育成を進めていくことを期待する。

【総評】(平成30年度)

・新しい拠点となって1年目であったが、移行期をうまく乗り越えた。新旧の街に分散して拠点を持つことになったことに対し、ソフト的な意味でのネットワークから各施設をどのように活用していくかまで、新しい可能性を含めて見えてきたことは評価できる。  
 ・Stationは横浜高速鉄道や道路局との調整の結果、よいスペースを作り上げることができた。事業についても、集客数が大きく落ちることはなかった。各拠点の特徴を生かした今後の展開に期待が持てる。  
 ・工事費・整備費等で予想外の支出があったものの、収支を合わせられたことは評価できる。

# 令和3年度 事業評価シート

拠点名: 急な坂スタジオ

運営期間: 平成29年度～令和3年度 (5年目/5年間)

## 【基本方針(使命・理念)】

- ①【横浜発】を、広く国内外に輩出する【創造・創作活動のためのプラットフォーム】
- ②次代を担う若いアーティストたちにとって【使いたいと思う稽古場】
- ③すべての利用者にとって【快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営】
- ④市民や将来の観客にとって、舞台芸術を身近に感じるきっかけとなる【体験型プログラム】
- ⑤安定した稼働率・利用料収入の維持によるバランスの良い経営

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価	
			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 施設における活動実績	1	施設の運営理念に沿った、貸館事業の実施と水準		
	2	貸館事業の利用団体数、スタジオの稼働率		
	3	自主事業、コーディネート事業等の実績と参加者数		
	4	地域・市民に開かれた場所とするためのクリエイティブ・チルドレンに資する活動の実施状況		
2 広報・情報発信	1	<広報・情報発信の基本戦略> <input type="checkbox"/> メディアを通じた活動成果の発信・積極的な情報提供 <input type="checkbox"/> 施設のHPの整備状況、バイリンガル表記等 <input type="checkbox"/> メールニュースの配信、その他新たな双方向メディアの活用 <input type="checkbox"/> ターゲットを絞った効果的な情報発信		
	2	<広報活動への反響・効果> <input type="checkbox"/> 新聞等の取材申込状況・掲載状況 <input type="checkbox"/> 国内外での専門誌等の掲載状況 <input type="checkbox"/> 広報ツールの効果・反響		
	3	<広報活動のアーカイブ> <input type="checkbox"/> 事業報告書(アニュアルレポート)の作成 <input type="checkbox"/> 出版物、映像資料、アーカイブなど <input type="checkbox"/> 人的ネットワーク構築の効果		
3 施設の維持管理状況	1	施設の管理状況		
	2	施設の修繕・改善状況		
	3	安全対策・危機管理体制		
4 運営体制・労務管理	1	常勤スタッフ数と役割分担(職能)・勤務体制		
	2	スキルアップ・モチベーションアップのための取組状況		
5 年間総事業費について (収入・支出)	1	年間総支出に占める管理運営費、人件費の割合(常勤スタッフの報酬と待遇等)  【参考:最低賃金・統計データ】 ・神奈川県最低賃金:1,012円/1時間※令和2年10月1日改正 ・民間給与実態調査(令和元年分調査) 業種別及び年齢階層別の給与額(1年を通じて勤務) 学術研究・専門・技術サービス業、教育、学習支援業 25～29歳:3,792千円、30～34歳:4,451千円、35～39歳:4,952千円、40～44歳:5,330千円、45～49歳: 5,709千円  【参考:横浜市の類似施設(令和元年度決算ベース)】 ・長浜ホール(9人):20,318千円 ・久良岐能舞台(7人):16,305千円		
	2	施設の管理運営に係る費用(管理運営費、人件費で事業に係る経費を除いたもの。)に対する年間利用料金収入の割合		
	3	収入の内訳等の状況(市補助金、助成金、協賛金、事業収入等)		

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

Ⅱ 創造性／政策達成評価			実施結果	事業評価		
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)		自己評価(成果・課題)	【チェック】	委員会評価
1 すべての利用者にとって【快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営】	1 すべての利用者にとって快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営を行っているか	稽古場の見回りや整備・清掃を適正に行っているか 稽古場利用者の視点に立った運営をしているか 申込方法、利用方法など、新規利用者にもわかりやすい対応をしているか 利用者へのサポート体制				
2 【横浜発】を、広く国内外に輩出する【創造・創作活動のためのプラットフォーム】	1 「横浜発」を意識した、発信力のある創造的活動を展開しているか	施設の運営理念に沿った、多様な自主事業の実施 オリジナルなものの創作、「横浜発」にこだわった創作 企画から制作までアーティストと連携しながら作品を創作 DanceDanceDance@YOKOHAMAの関連企画としてのダンスワークショップの開催 都市空間・立地環境を意識した活動・創作 開館15周年に向けた取組のまとめ 施設内外で行った各種事業の発信				
3 次代を担う若いアーティストたちにとって、【使いたいと思う稽古場】	1 新たな可能性を持つ人材を発掘、育成しているか	急な坂による戯曲賞やアワードの授与 舞台芸術にかかわる人材の育成支援(インサイドアウト) 稽古場等におけるパワハラ等の勉強会の実施 和室を活用した滞在アーティストによる、多様なジャンルの子供向けワークショップ アーティスト・イン・レジデンスの実施 アーティストフィールドワークの支援				
4 市民や将来の観客にとって、舞台芸術を身近に感じるきっかけとなる【体験型プログラム】	1 子供たちの創造性を育む創造的プログラムを展開しているか 2 地域・市民に開かれた取組を行っているか	(再掲)DanceDanceDance@YOKOHAMAの関連企画としてのダンスワークショップの開催 (再掲)和室を活用した、滞在アーティストによる多様なジャンルの子供向けワークショップ 参加する子供たちが主体的に活動できる企画・運営 市内の既存の文化施設、他の創造界隈拠点との連携等 国内外の活動拠点との交流・連携 市民を対象としたプログラムの実施 関内・関外周辺地域を意識した事業展開				

**【総評】**

**【市の取り組むべき事項】**

**【総評】(令和元年度)**  
 ・限られた予算と人員の中で多くの事業を丁寧に実施されている。若手の支援をはじめ、稽古場ならではの企画や、コロナで人を集められない中で状況に応じた企画ができていく点が評価できる。  
 ・子供向けプログラムについて、子供に関心があるアーティストと協力しながら企画を組み立てるなど、柔軟な発想で考えられるといい。急な坂らしい企画を期待する。

**【総評】(平成30年度)**  
 ・新規事業含め、ニーズを丁寧にすくいあげた企画運営・サポートができており、稽古場としては十分な運営ができていく。今後は、運営体制を十分に確保し、体験型プログラム等、市民の創造性を育むプログラムを増やせると良い。  
 ・相談室plusや新規サポートアーティストの応募数も増えており、着実に事業を運営している。  
 ・運営の継続性を意識し、現在の人件費が適正か、業務内容や業界水準を考慮し見直すべき。

**【総評】(平成29年度)**  
 ・稼働率も安定しており、稽古場として着実な運営ができているとともに、スタッフにアーティストなどを起用することにより、利用者目線での運営を実現している。また、アーティストの不定期な働き方や産休・育休等、ワークライフバランスにも配慮していることが評価できる。  
 ・日本舞踊家による小学生向けワークショップを実施するなど、これまで以上にクリエイティブ・チルドレンに資する事業に精力的に取り組んでいる点は評価できる。

# 令和3年度 事業評価シート

拠点名: 初黄・日ノ出町文化芸術拠点

運営期間: 平成31年度～令和3年度 (3年目/3年間)

## 【基本方針(使命・理念)】

- ◆安心・安全のまちづくりを最優先に位置づけ、以下の理念を基に文化芸術によるまちづくりを行う
- ①文化芸術の力で新しい価値観を生み出し、地区の活性化
- ②NPO法人を中心に、地域、企業、行政、警察、ボランティア等を巻き込んだ新しいスタイルの事業運営
- ③産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開
- ④大学、研究機関等との連携により、まちの活性化、地域再生のモデル地区として全国に発信する

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価	
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 全体事業収支	1 全体事業収支			
2 事業収入	2 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 黄金町バザール(チケット収入等)</li> <li><input type="checkbox"/> 黄金町芸術学校(受講料)</li> <li><input type="checkbox"/> 高架下スタジオ利用料</li> <li><input type="checkbox"/> その他物件家賃収入</li> <li><input type="checkbox"/> ギャラリー等販売手数料</li> <li><input type="checkbox"/> 視察受け入れ</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul>			
3 施設の維持管理状況	1 管理施設数			
	2 施設の利用状況			
	3 施設の改修状況			
	4 安全対策			

※自己評価のチェックについて：取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

Ⅱ 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)	評価の着眼点	実施結果	事業評価		
評価軸	1				2	委員会評価	
1 文化芸術の力で新しい価値観を生み出す	1	AIR事業 長期・短期レジデンス/共用施設の運用/成果展/中間面談/アーティストミーティング/作品展示・販売協力/広報協力	<目標>入居者数75組、施設整備数8件 ・プログラムの効果、アーティスト支援の内容 [取組の効果]募集スキーム、管理体制の構築/募集時期見直し/事業者枠の設定/リサーチ向けプログラムの整備/未活用物件の整備/他AIRとの差別化/不動産会社との連携/アーティスト支援				
	2	国際交流事業 レジデンス交換プログラム/交換展示/東アジア文化都市交流/海外アート紹介	<目標>予定団体5団体 [取組の効果]新たなアートスペースとの交流				
	3	黄金町バザール2021 公募・推薦選考による国内外のアーティストと黄金町の長期レジデンスアーティストによる作品展示	<目標>来場者数15,000人 ・アーティスト、作品、展覧会構成 [取組の効果]周辺施設との連携/リモート参加の検討				
	4	展覧会イベント企画	<目標>企画展3企画、イベント12企画 ・日常的にアートに触れる機会の創出 [取組の効果]長期アーティストの個展、ライブラリー企画				
	5	made in Koganecho コミッションワーク/パブリックアート企画制作	<目標>プロモーション強化 [取組の効果]市郊外部での企画/海外販路/ウィンドウ展示				
	6	黄金町芸術学校 実技講座/専門講座/ワークショップ	<目標>講座数10講座、受講者数100人 ・講座数、受講者数の拡充				
2 地域、企業、大学、警察、行政、ボランティア等と連携した事業運営	1	のきさきアートフェア	<目標>来場者数2,000人、開催回数1～3回 ・地域団体、周辺施設との連携、PRの強化				
	2	初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会事務局運営 定例会運営/まちのルールづくり/防犯パトロール	<目標>会議出席者20名/回 ・町内会との連携強化 [取組の効果]「まちづくりニュース」の内容見直し				
	3	地域活動支援 大岡川桜まつり、大岡川水上劇場、運河パレード等の地域イベント支援/黄金町BASE支援/東小放課後キッズとの連携	<目標>活動周知、参加者数向上 ・地域イベントの支援や連携、PRの強化 [取組の効果]				
	4	京浜急行との連携/エリアマネジメント検討	<目標>管理施設を中心としたマスタープラン作成				
	5	日ノ出・黄金スタジオ運用	<目標>プロモーション拠点としての運用 [取組の効果]カフェ事業者との連携/日常的なオープン/シェアカフェの運用				
	6	ボランティア等との連携 バザールサポーター	<目標>実働人数増加 [取組の効果]サポーター向けコンテンツの拡充/イベント連携/情報発信				
3 産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開	1	施設貸出(1day～) レンタルスペース	<目標>PR強化、回転率増 [取組の効果]時間貸プラットフォームの活用、運用スキームの構築				
	2	エリアマネジメント検討 関係者との継続的な協議/マスタープランの提案	<目標>関係者との協議継続 [取組の効果]中長期マスタープランの作成、施設運用				
	3	初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会事務局運営	<目標>会議出席者20名/回				
	4	初黄日商店会事務局運営	<目標>まちゼミ実施、はつこひ市場開催 [取組の効果]地域ブランド商品の開発				
4 地域再生のモデル地区として全国に発信	1	地域内外へ向けた情報発信、メールマガジン、SNSでの情報発信	<目標>HPアクセス数、メールマガジン登録者数、SNSフォロワー数増加				
	2	視察受け入れ(有料)	<目標>視察受入人数増加 ・販売資料の増加				
	3	支援者獲得	<目標>支援者獲得 ・広報ツールの整理				

**【総評】**

**【市の取り組むべき事項】**

**【総評】(令和元年度)**  
 ・これまでの着実な事業の実施により生み出した成果は高く評価できる。地元企業等との連携については、さらなる発展が期待できる。今後は、周辺地域との連携も意識し、パートナーを広げていけると良い。  
 ・アーティストインレジデンス事業は、日常の表現を支えるものと、バザールなどイベント系のものとバランスよく実施できており、黄金町の特徴を出せている。これまで培った海外とのネットワークを途切れさせないよう、オンライン等への展開など、柔軟な対応が望まれる。  
 ・黄金町の取組は世界的にみてもモデルケースになり得るので、しっかりと取組をアーカイブして発信すること、次の取組に生かしていくことを期待する。

**【総評】(平成30年度)**  
 ・これまで10年以上、着実に取組を継続してきたことで、収益面以外の成果(文化の耕し)が出ている。  
 ・レジデンスアーティストの海外での展示機会が増えているほか、卒業時には周辺物件を紹介する等、積極的な一貫した支援ができています。実際に周辺に残るアーティストが増加傾向にあることは高く評価できる。  
 ・多岐に渡る業務をこなしているが、マンパワーに見合った事業計画か、成果が出ているか、収支のバランスがとれているか、事業ごとに適宜振り返り、改善・整理していけると良い。

**【総評】(平成29年度)**  
 ・Tinysの開設は、NPOのこれまでの取組実績によるところが大きい。これによりスタッフの意識や組織力が向上していることが伺える。今後は本実績についての効果的なPR等により、民間投資をさらに誘導していけると良い。  
 ・屋外、特に川沿いの作品展示やアートクルーズは、市民の関心を集める良い事業であり評価できる。  
 ・アーティストの出口(育成・ステップアップ)について戦略を持ってプロモーション活動をするのが望まれる。

**【総評】(平成28年度)**  
 ・地元や行政と連携しながら順調に事業を実施している。  
 ・アーティスト・クリエイターの適性・実力を見極め、プロへの道しるべを示す役割も望まれる。  
 ・運営者側に従業員の負担が大きいという課題認識があることから、事業の時間対効果、費用対効果を検証し、改善に向けた取組を検討していくことが必要。  
 ・まちが「ふつう」になると、刺激を求めるアーティストにとって魅力が落ちるといった側面がある。これまでの成果をもとに、アーティストにとっての魅力は何かを検証し、事業に生かすことが望ましい。

# 令和3年度 事業評価シート

拠点名: 象の鼻テラス

運営期間: 令和2年度～令和7年度 (2年目/5年間)

## 【基本方針(使命・理念)】

- ①創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する
- ②象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価	
			自己評価(成果・課題)	委員会評価
評価軸				
1 無料休憩スペース/ 観光インフォメーション運 営	1 市民に開かれた無料休憩スペースを運営			
	2 観光インフォメーションの運営			
	3 利用者の利便性向上に資する取組			
2 運営体制	1 スタッフの配置状況(役割・人数)、勤務体制			
	2 緊急時の体制			
	3 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
3 施設の維持管理	1 施設の維持管理状況			
	2 施設の小規模修繕・改善状況			
	3 安全対策、安全管理体制			
4 広報活動	1 象の鼻テラス及び各事業の効果的な広報活動・情報発信			
	2 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
	3 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			
	4 海外を意識した情報発信(バイリンガル対応等)			

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)	実施結果	事業評価		
評価軸	評価の着眼点			自己評価(成果・課題)	【チェック】	委員会評価
創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する	1	<p>質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する事業</p> <p><input type="checkbox"/>新規性・独自性の高い活動並びに象の鼻地区の特性を生かした国際性の高い事業の展開</p> <p><input type="checkbox"/>多様なアーティスト、クリエイターへの活動の場の提供</p> <p><input type="checkbox"/>多様な文化芸術活動主体との連携</p>	<p>■世界の港町の文化拠点とのネットワーク活用による交流事業</p> <p>・PORT JOURNEYS</p> <p>■多様なアーティスト、クリエイターの表現を追求する創造的活動の場の提供</p> <p>・ZOU-NO-HANA BALLET PROJECT</p> <p>■国際文化を紹介する質の高い芸術表現の発信</p> <p>・協力事業/フランス月間</p>			
	2	<p>まちづくり、賑わいづくりに資する事業</p> <p><input type="checkbox"/>都市文化観光への寄与</p> <p><input type="checkbox"/>都心臨海部の立地環境、歴史性を意識した企画・活動</p>	<p>■地域性および国際性を取り入れた都市文化観光につながる賑わい創出</p> <p>・ZOU-SUN-MARCHE</p> <p>■象の鼻パークの歴史を生かした観光ツアープログラムの実施</p> <p>・ETB(エレファント・トラベル・ビューロー)</p>			
	3	<p>市民にとってより身近で開かれた事業</p> <p><input type="checkbox"/>市民参加プログラム、教育プログラムの充実</p> <p><input type="checkbox"/>市内教育機関、文化施設等との連携</p> <p><input type="checkbox"/>ガイドボランティアの自立性強化</p>	<p>■子どもの創造性を育成するワークショップなどの教育プログラムの実施</p> <p>・ATELIER ZOU-NO-HANA</p> <p>■日常的に文化体験をする場や人との出会う機会の提供</p> <p>・SNACK ZOU-NO-HANA</p> <p>■市民創作活動の発表の場の提供</p> <p>・ダンス縁日</p> <p>■市民ボランティアの自律的な活動の推進</p> <p>・ETB(エレファント・トラベル・ビューロー)</p>			
	4	<p>協力事業</p> <p><input type="checkbox"/>横浜市主催事業、横浜市の政策に沿った事業、創造界隈拠点と連携した事業等との協力・連携</p>	<p>■マイノリティの視点から社会課題を解決に向けアーティスト等と取り組む事業</p> <p>・スローレーベル/ヨコハマ・バタリエンナーレ</p> <p>■多様な事業者との連携事業</p> <p>・その他協力事業</p>			
	5	<p>館内作品展示業務</p> <p><input type="checkbox"/>日常的に質の高いアート作品・映像作品の展示</p> <p><input type="checkbox"/>利用者に対する観覧案内・サポート</p>	<p>■多様な文化芸術のキャッチアップおよび展示発表</p> <p>・PORT JOURNEYS</p> <p>■横浜を拠点とするアーティスト支援をめざす公募型展示企画</p> <p>・ZOU-NO-HANA GALLERY SERIES</p>			
	6	<p>便益施設(カフェ)運営</p> <p><input type="checkbox"/>カフェからの積極的な文化発信</p>	<p>■オリジナルイベントの開催</p> <p>・ZOU-NO-HANA BENTO PROJECT</p> <p>■各文化芸術事業と連携するアーティストカフェとしての活動</p>			
2 象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す	1	<p>公共空間の活用</p> <p><input type="checkbox"/>象の鼻パークとの一体的活用・ノウハウの蓄積</p> <p><input type="checkbox"/>象の鼻地区の魅力を向上させる活動</p>	<p>■アーティスト、市民、大学、企業などと取り組む公共空間の活用実験</p> <p>・ZOU-NO-HANA FUTUREScape PROJECT</p>			

【総評】

【市の取り組むべき事項】

【総評】(令和元年度)

・国有地、港湾施設として制約が多い施設運営にもかかわらず、市民を対象とした質の高い多彩なプログラムを実施し定着させている。10年間に築き上げた実績は大きい。

・これからの5年、10年を見据えたうえでフューチャースケープ・プロジェクトのような意欲的なプロジェクトを実施し、新たな可能性と方向性を見つけたことは評価できる。

・アート・プログラムのターゲットがなかなか絞り込めないという難しさがある中で、市民に開かれたプログラムを着実に実施してきている。

【総評】(平成30年度)

・港にあることの特質や市民への開放性など、象の鼻テラスらしさのある企画が行われている。

・10年という時間をかけて象の鼻テラスというブランドが確立されている。

ここにしかない、かつ、市民に開かれた空間が、市民からの提案という形で実現する可能性があることが、他の拠点と違う特徴であり成果である。

・分科会で出た課題についてはきちんと改善・向上するよう努力されており、少ない人数でしっかり運営していることは評価できる。

【総評】(平成29年度)

・無料休憩所の運営と文化観光交流拠点の運営の両立という難しいミッションのもと、総合的に質、量ともにレベルの高いプログラムを実施している。

・事業者の努力により、運営における人員体制は改善されてきている。

・フューチャースケーププロジェクトは、これからの象の鼻テラスにとって重要なプロジェクトなので、市とワコールとの両輪で進めてほしい。市民との話し合いもキックオフイベントの1回だけでなく、続けていけるとよい。また、その成果も公開するなどして、なるべく多くの市民と共有できると良い。

【総評】(平成28年度)

・例年、施設の規模や人員以上の、質、量ともに高いプログラムを実施してきている。

・これまでの8年間の事業の積み上げが、象の鼻ブランドとして市民の間に定着している。

・年度ごとの目標を設定し、その中で課題の解決に向けて動くというマネジメントサイクルが構築されている。

・国内外の文化芸術関係者にも取組の中身がこれまで以上にリーチするよう発信方法を工夫するとともに、既存プログラムのアーカイブをもっと有効活用できると良い。

# 令和3年度 事業評価シート(案)

拠点名: THE BAYS(旧関東財務局横浜財務事務所)

運営期間: 平成28年度～令和12年度 (6年目/15年間)

## 【基本方針(使命・理念)】

- ① 関内・関外地区における創造産業の集積をさらに推進し、これを横浜経済の活性化につなげる
- ② 旧関東財務局の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る

I 運営評価		実施結果	事業評価	
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 ＜施設の運営状況＞	1 賃貸借契約により賃料を支払いながら、施設を運営できているか？			
	2 文化財の価値を損なわず、建物の歴史を生かした活用を行っているか？			
	3 コミュニティスペースがクリエイター・企業等の交流の場として十分利用されているか？			
	4 3階会議スペースがラボ会員等に十分利用されているか？			
	5 事業計画協定書における事業計画を基本に、事業目的に適った運営がなされているか？			
2 ＜広報活動＞	1 施設及び各事業の効果的な広報活動・情報発信が行われているか？			
	2 創造都市横浜のPRにつながる工夫がなされているか？			
3 ＜施設の維持管理＞	1 施設を法令遵守して維持管理しているか？（特に文化財として）			
	2 施設の変更や修繕について決められた通り報告しているか？			
	3 利用方法の変更などについて事前に報告・相談をしているか？			
	4 安全対策、安全管理をしっかりとした体制で行っているか？			

※自己評価のチェックについて: 取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)	実施結果	事業評価		
評価軸	評価の着眼点			自己評価(成果・課題)	【チェック】	委員会評価
1 関内外地区における創造産業の集積をさらに推進する	1	スポーツ×クリエイティブというコンセプトを体現する活動、事業等を総合的に実践できたか？	下記4つの軸でイベントを実施し、網羅的に、スポーツ×クリエイティブを体現する。 軸①Next Ballpark Meeting 軸②子供向けアカデミー/ビジネススクール 軸③観光プロジェクト 軸④スポーツ×○○イベント			
	2	新たなイノベーション・創造産業の創出・集積に向けた活動が進んでいるか？(創造産業創出にかかる人材等の集積や出口の創出に向けた活動が進んでいるか？)	上記の軸③では、観光プロジェクトで、THE BAYSの利用者から[横浜を楽しむ観光アイデア]を集積し、アイデアの具現化・商品化を目指す。 CSLのブース数の増加や個人スペースの充実を図ることでCSL会員を増やし、連携先の土台を増やす。			
	3	創造界隈のクリエイター、企業、大学、市民、行政との交流・連携が促進されているか？	軸②の子供向けアカデミーでは、関内外で活躍するクリエイターやCSLの会員とコラボしたイベントを実施し、継続的な交流・連携を促す。			
2 本施設の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る	1	日本大通り地区の賑わい創出に貢献しているか？	コロナ禍においてニーズが高まっているオープンテラス・中庭のさらなる有効活用する。 フロアごとの連携をし、THE BAYS内での循環再来館を促進することで、賑わい創出に貢献する。 コロナの状況に左右されるが、野球イベントと連携した施策を実施し、スタジアムへの観戦客のTHE BAYSへの来館を促す。			
	2	日本大通り地区の事業に参加・協力しているか？	日本大通り活性化委員会/その他日本大通り沿いのイベントに実施する。			
	3	スポーツ×クリエイティブという視点から、創造界隈の形成や関内外の活性化にも活動を広げているか？	上記観光プロジェクトをTHE BAYS.日本大通りという枠を超えて関内外や横浜の街に活動を広げる施策として利用する。			

**【総評】**

**【市の取り組むべき事項】**

**【総評】(令和元年度)**  
 ・4年目を迎えて、活動としては非常に活発化しているが、創造産業に関する活動のアウトプットが不足している。外部との連携も踏まえた創造産業の集積の促進と発展に向けて頑張ってもらいたい。  
 ・内部の活動を外に見える化していくためにも、中庭の活用など、官民連携していったほしい。

**【総評】(平成30年度)**  
 ・創造産業の集積に対する取組みを行っており、成果が会員数の増加などの数字に表れている。  
 ・新規の取り組みへの投資もしながら健全経営をしている。  
 ・ACYや市との協働も行っており、昨年度の課題を受け止め、それを丁寧に実施している。

**【総評】(平成29年度)**  
 ・入口としての取組は、数多く実施しており評価できる。  
 ・今後さらに、活用事業者と市の協力(及び他の拠点との連携)により、アウトプットの発信・販売戦略等を協力して練り、各取組を創造産業の創出・集積という出口につなげていく必要がある。

**【総評】(平成28年度)**  
 ・CSLについては、事業目的に沿った、競争力の高いクリエイターや企業が初動の段階で会員となっている点が評価できる。  
 ・他の拠点にはない、一般企業と創造界隈拠点をつなげる役割を担っている点が評価できる。  
 ・事前の戦略的な広報等により、多数のマスコミにとりあげられ、話題づくりに貢献した。  
 ・建物の歴史をうまく活かして、良いデザインの空間づくりができています。